

鎌ヶ谷でオスプレイを考える

——木更津の野中さん語る——

オスプレイの試験飛行も行われ(2020年11/6)ついに日の丸オスプレイが基地外で訓練を開始します。「オスプレイいらない鎌ヶ谷市民の会」主催で木更津の『オスプレイ来るないらない住民の会』事務局長野中さんからお話を聞く企画がありました。(11/22)



野中さんは「木更津基地は国有地であり戦前に漁業補償も終わっている米軍の基地でそれを自衛隊が借りている駐屯地(日米地位協定 2-4a)なのです。東京デズニーランドの約2倍ほどの広さを持っている」と説明しました。

整備拠点になっていることから米軍オスプレイも飛行しそのときは“日米地位協定”が問題になり、陸自のオスプレイでは“自衛隊法”が問題になる。沖縄と同じ様な問題があり木更津での闘いをがんばることが沖縄につながると木更津オスプレイの措かれている位置を語りました。

そして木更津住民の会、船橋・八千代・習志野市民の会、鎌ヶ谷市民の会など千葉県全体のネットワークで「オスプレイいらない」の運動をしていきたいと今後の展望も示唆しました。

野中さんは木更津への暫定配備が決まるまでの間の様子を語りました。

いつも防衛省はどのようにやってくるのか?どのように訓練するのか?市民に説明をほとんどしない。「米軍と一緒に訓練するのか?」「米海兵隊だけでなく米海軍のオスプレイの整備をするというがどのようになるのか?」「これから17機のオスプレイがどのように訓練するのか?」と問うても説明なし。

市長と市議会は暫定配備に慎重であったが2019年12月議会から突然変わった。議会から「5年かどうか」「佐賀空港が出来るまでは木更津で」と意見書を出し河野防衛大臣がこれを受けの中で市長も容認へ。容認してからは基地対策委員会も基地政策委員会へ。「防衛省は協力する木更津に多くの補助金を」と要望する。4200万円の予算を立て漁業関係者や区長会にお金が配られる状況になっていると問題点を指摘しました。

整備拠点については2020年5月米軍から8つの提言が示された。「整備期間は9.5年」「1機1年4ヶ月の整備期間」「米軍(海兵隊・海軍)7機の整備体制を」「そのため格納庫2庫増設(防衛予算に記載されてます84億円)」「米軍の指示で対応を」などが提示されたが詳細な説明はなし。

配備された陸自のオスプレイの訓練は①CH-47の訓練空域・ルートで訓練②水陸機動団(佐世保)の訓練のための仕事③基本的にオスプレイは目視での飛行(すべて機長の責任)とのこと。それ故習志野から下総へ飛行はするし、海上飛行は京葉石油コンビナート上を飛ぶことになる。東富士・相馬が原・関山への訓練、南房総での低空飛行訓練も行われることに。

基地内一基地外(東京湾・相模湾)一隊としての訓練とすべての訓練が行われることで墜落の危険性・低周波の重い騒音が市民の頭上に降るかかってくることになるのです。

今後の木更津の住民の会の活動方針は①暫定配備しない②日米オスプレイの整備拠点にしない③平和のほうの木更津の持続可能な発展になる④市民の声にそって要望していく。とし「木更津基地の拡大をさせない」「海外へ派遣させない」「憲法を守れ」との住民の意志に基づいて活動を展開していくとのこと。

最後にオスプレイのために耐熱対応にしたり基地が変わっていく様子を見てると、「首都圏約50機のオスプレイの一大修理拠点になってしまうのでは」との懸念を表明しました。

下総基地のある鎌ヶ谷市民も、木更津住民・習志野周辺市民と共に「オスプレイいらない」の声を上げ、「どこの空にもオスプレイのいない平和で安全な空」を取り戻したいものです。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144